

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 宮城県気仙沼市立大谷小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒988-0273

宮城県気仙沼市本吉町三島28番地

E-mail ohya-sho@kesennuma.ed.jp

Website http://www.kesennuma.ed.jp

幼児児童生徒数 男子85名 女子81名 合計166名

幼児・児童・生徒の年齢6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「見つめ 調べ 広げよう ふるさとの人と自然」を活動のテーマとし、ESDを全教育活動で推進していく重要方策と捉え、ESDの実践を通して、「自己の生き方を考える力の育成」を目標としている。

具体的には、地域、環境、福祉、防災を柱に、①大谷の地域づくりに係わる活動、②海に係わる活動、③高齢者や障がい者に係わる活動、④災害に係わる活動を行った。

① 大谷の地域づくりに係わる活動

低学年では、地域に親しむことを目的として、まち探検や「あそび一ぱー」といった地域の方や身近にある施設と関わる活動を行っている。

中学年では、地域について知ることを目的として、ワカメの養殖やねぎ栽培等、漁業や農業に従事している地域の方や団体をゲストティーチャーに招き、実際に現地に行って調べたり、体験したりする活動を行っている

高学年では、地域により深く関わり、貢献できることを目的として、隣接している大谷幼稚園や中学校と連携した米作り体験を行ったり、これまで学んだことをもとに、大谷地区内の伝統や文化、自然に関する特徴をまとめたりして、

未来の大谷のまちづくりに生かすことができる活動を考え、発表している。

② 海に係わる活動

震災後に休止していた大谷の豊かな海を生かした活動を復活させることが急務であったが、今年度「海に親しむ集い」を、全校行事として復活させることができた。大谷海岸の清掃や砂の造形活動を行うことで、海のよさや海とのつながりを感じ取らせ、海に対する親しみを持たせることができた。また、今年度は、3学年でわかめの養殖体験を行ったが、次年度は、全学年で海に関わる活動を取り入れ、系統性を持たせていく予定である。

③ 高齢者や障がいに係わる活動

地域の高齢者等と関わり、「自分たちができることは何か」を考えることを目的として、キャップ・ハンディ体験や車椅子体験を行っている。疑似体験を通して、目の見えにくさや階段等の段差の危険性に気付かせることができる。その体験をもとに、「高齢者と触れ合うには、どうすればよいのか」という課題を設定し、個人やグループで考えをまとめ、近隣にある高齢者福祉施設で交流会を行っている。交流会終了後には、体験を通して分かったことや気付いたことをレポート等にまとめ、発表会を行っている。

④ 災害に係わる活動

「分かる 助かる みんなで助かる」を目的とし、学校行事として、登下校時の避難訓練や災害時等引き渡し訓練、幼稚園と中学校、地域の方との合同避難訓練を行っている。また、適宜ショート訓練等を行い、日常的に安全、防災に対する意識を高めている。

また、3学年以上では、総合的な学習の時間の中で、校舎内や大谷地区内で地震等発生時に予測される危険性について調べたり、災害等発生時に常に備えるべき備蓄品について考えたりし、新聞やレポート等にまとめている。



① 「未来に残そう ふるさと大谷」
発表会（6学年）



② 海に親しむ集い（砂の造形）



③ 高齢者との交流会（3学年）



④ 登下校時避難訓練

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input checked="" type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

・「わたしたちの本吉町」	・「いきものたんぼ プロジェクト」
・「みんなが住みやすいまちづくり」	・「農業とわたしたちの暮らし」
・「未来へのきずな」(各学年)	等
・田んぼのいきもの図かん	

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

教育課程において、1・2学年は生活科、3学年以上は総合的な学習の時間の中で、「地域」、「環境」、「福祉」、「防災」に関する活動内容を定め、「自己の生き方に活用できる」ことを目指し、指導に当たっている。また、授業時や登下校時等、様々な場面を想定した避難訓練、大谷海岸での砂浜清掃や砂の造形を行う「海に親しむ集い」を行事としても取り入れて実施している。指導に当たっては、五感を働かせながら学ぶことができるよう、体験的な活動を取り入れている。そこで、「なぜ、そのようになるんだろう」という問題意識を持たせ、調べ学習につなげることができるようにしている。調べて分かったことは、各学年で他学年や保護者、地域の方を招待し、「誰に、何を伝えるのか」という相手意識や目的意識を明確にさせて発表できるようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

震災後、地域環境も変化していることから、職員会議等でESD担当教諭や研究主任を中心に、活用できる「人」や「もの」等について情報交換を行い、活動内容に変更を加えながら、弾力的に指導計画を立てている。また、隣接している大谷幼稚園や大谷中学校と連携した活動や、地域コーディネーター、NPO法人「はまわらす」、大谷公民館等、地域人材や各種団体の協力体制のもとで、学校、地域で一体的に取り組んでいる。今後は、各学年で海での活動を取り入れ、学年間の系統性を高めることを目指している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

評価では主に、児童の観察や作品、レポートの累積や、発表会などの表現活動から、「児童がどのように変容しているのか」という観点で評価している。「自分ができること」や「これからの地域との関わり」について、進んで考えている児童が多い。実際に、授業で学んだ内容に関連する地域的行事に参加している児童も見られる。また、発表会や学校行事等では保護者や地域の方々等、外部にも情報を発信し、保護者アンケート等では多くの肯定的な意見が多い。「誰に何を伝えるのか」という活動のゴールが変わることで、情報発信の方法も変わってくるため、情報発信のよりよい方法を職員間で共通理解を図っていくことが課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

6 学年では「未来に残そう ふるさと大谷」をテーマにし、未来の大谷に残したい施設やキャラクター等をレポートにまとめ、5 学年や保護者、地域の方々を招いて発表会を行った。外部の方も参加することで、児童の考える地域性について広く情報を発信することができるとともに、地域への愛着も感じ取らせることができた。また、各学年で発表会を取り入れてきたことで、児童も学んだことを発信しようとする意欲が高まり、更に情報を外部にも発信していることで、地域のネットワーク形成にも生かされている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

地域コーディネーター等の人材の活用や NPO 法人「はまわらす」、「あそびーばー」等の団体、近隣にある大谷公民館やディサービスセンター等の施設と連携して指導に当たっている。特に地域コーディネーターの活用は、震災以前から毎年継続して取り入れており、地域の実態により即した活動ができている。今年度、震災後初めて実施した「海に親しむ集い」は、NPO 法人「はまわらす」や大谷公民館等の関係諸団体とこれまでネットワークを形成してきたことで、実現につなげることができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

大谷学区の幼稚園、小学校、中学校は、以前から3者が連携して学校行事等を行い、校種間の交流を深めてきた。隣接しているという立地性を生かし、震災以前は海での活動や米作り体験等に連携して取り組み、校種間に系統性を持たせて活動することができていた。震災後も米作り体験には、連携して取り組んでいるが、海での活動にも再び、3者が連携して取り組む方針である。今後も、大谷学区で築いてきたネットワークを、更に密に形成していく必要がある。

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

ユネスコス쿨の活動を取り入れてきたことで、特に児童が自主的に地域行事に参加するようになった。これは地域学習を通して、地域について理解を深めることで、地域のよさについて気付くことができ、地域への愛着が深まっている成果のひとつと言える。また、来年度以降も学校経営において、ESDのように地域に根ざした教育を核とし、海洋教育や防災教育等を更に多面的に実施していく方針である。児童だけではなく、教員のESDに対する潜在的な意識の変容も見られるようになってきている。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

各学年の活動計画では、「地域」、「環境」、「福祉」、「防災」に関する活動内容を取り入れる。

1学年・2学年では主に生活科の中で、3学年以上は主に総合的な学習の時間の中で行う。

- 1学年・・・「がっこうだいすき（地域）」
「なつとあそぼう（地域）」
「もうすぐ2年生（地域）」
- 2学年・・・「わたしたちのまちをたんけんしよう（地域）」
「もっとまちの人となかよくなろう（地域）」
- 3学年・・・「地域の名人に学ぼう（地域）」
「まちのお年寄りと仲よくなろう（福祉）」
「身近な場所の避難の仕方を考えよう（防災）」
- 4学年・・・「エコプロジェクト（環境）」
「障害について考えよう（福祉）」
「校内での避難の仕方考えよう（防災）」
- 5学年・・・「大谷の環境について考えよう（環境）」
「大谷の防災について考えよう（防災）」
「大谷の伝統鼓笛隊（地域）」
- 6学年・・・「探ろうふるさと 考えよう未来の大谷（地域）」
「地域や保護者へ発信！（地域）」
「『災害』自分たちにできること（防災）」
「大谷の伝統鼓笛隊（地域）」

行事としては、地域と連携した避難訓練や「海に親しむ集い」等を実施する予定である。次年度も地域や校種間の「つながり」を意識した活動を計画している。